

CAB CLONE™ **IR+**

取扱説明書

Hello from the Tone Farm

この度はCabClone™ IR+をお買い求め頂きありがとうございます。そしてMESA/Boogieファミリーへようこそ！本製品は、すべてのMESA/Boogie製品と同じく厳格な基準に従って製造されており、我々はその機能やサウンドを末永くお楽しみ頂けるよう願っております。また、本製品も他のアンプやキャビネットと同様に、カリフォルニア州ベタルマの自社工場にて熟練の真空管アンプビルダー達により手作業で組み上げられています。

本書は、本製品に関するあらゆる事項を網羅しています。製品を使用する上で何らかの疑問が生じた際に、本書が解決の一助となれば幸いです。

CAB CLONE™ IR+

Table of Contents

使用上の注意	
OVERVIEW	1-2
HELPFUL HINTS	3

REAR PANEL (Interface Connections)

INPUT: LINE/INST	3
INPUT: FROM AMP SPKR OUT	3
OUTPUT: TO SPKR	3-6
MIDI THRU	7
MIDI IN	7
POWER: 18VDC/1 AMP	7
USB	7
LIFT/GROUND	8
180/PHASE	8
D.I. OUTPUT	8
LINE OUT (DRY)	8
HEADPHONES	8

TOP PANEL CONTROLS

CLIP LED	9
INPUT LEVEL	9
PRESENCE	9
OUTPUT LEVEL	9
CAB SELECT ROTARY & BANK SELECT SWITCH	9
SPKR/LOAD SWITCH	10
LEVEL	10
ATTENUATOR	11
ORGANIZING AND LOADING IR's	12
EXAMPLE LIVE AND STUDIO CONNECTION DIAGRAMS	13-17
SPECIFICATIONS	18

安全に関する重要事項

製品を使用する前に、必ず本項目を読んでください。

本書を紛失・廃棄せず、製品とあわせて保管してください。

すべての注意事項に留意した上で製品をご使用ください。

すべての操作説明に従って製品をご使用ください。

水や液体に触れる恐れがある場所での使用を避けてください。

お手入れをする際は必ず乾いた布を使用してください。

本製品の通気口を塞がずにご使用ください。メーカーが示す手順に従って設置してください。

ストーブやヒーター、ラジエーターなど熱源の近くに設置しないでください。

極性やアース付きのプラグは正しい向きでコンセントに接続してください。2本のブレードのうち片方が幅広のプラグは極性が付いています。2本のブレードに加えて1本の突起が付いているプラグはアース付きのものです。幅広のブレードや3本目の突起は安全を守るためのものです。もし本製品付属のプラグがお使いのコンセントの形状に合わない場合は、電気技師に相談の上、旧式のコンセントを新しいものに交換してください。

電源コードが踏まれたり、何かに挟まれたりしないように注意してください(特にプラグやコンセント、および機械への接続部付近)。

付属品・アクセサリ類はメーカー指定のものだけを使用してください。

雷雨の際や長期間使用しない際は、コンセントからプラグを抜いて保管してください。

電源コードが傷ついた、本製品の上に液体がこぼれた、何かを落とした、雨に濡れたり水没した、本製品を床に落とした、何らかの原因により正しく動作しない場合には専門の修理業者へお問い合わせください。

CAUTION: 出力100Wを超えるアンプでインターナル・ロード機能を使用する場合、アンプ側のアウトプット(マスターボリューム)を最大まで上げないでください。スピーカーへの接続時と同じくアンプに過負荷が加わり、真空管の寿命を縮めてしまう場合がございます。もし本製品の筐体に触れないほど発熱している場合は、マスターボリュームを下げてください。

ロウソクのような火が付いているものを本製品の上に置かないでください。

本製品を水滴や蒸気などに晒さないでください。また、花瓶など液体が入っているものを本製品の上に置かないでください。

WARNING: 本製品が雨や湿気に晒された場合、発火による火傷や感電などにつながる恐れがございます。

コンセントの近くに設置し、プラグを抜き差しできるようにしてください。

WARNING: アンプの電源を入れる前にアンプとロード回路が正しく接続されていることを確認してください。正しく接続されていない場合、感電事故やアンプの故障を引き起こす恐れがございます。

直射日光や高熱に晒さないでください。

スピーカーなどの再生機器を傷めないよう、接続前にすべての関連機器の電源を落とすようにしてください。

ボタンやスイッチを動かす際に過剰な力を加えないでください。また、お手入れの際にベンジンやシンナー等の溶剤を使用しないでください。

本製品のリアパネル記載の仕様と適合するパワーサプライだけを使用してください。お住まいの地域のルールに沿った方法でアース接続を行ってください。

上記取扱注意事項と安全管理事項を必ずお読みください

CAB CLONE™ IR+

取扱説明書

OVERVIEW

CabClone IR+は、MESA製スピーカーキャビネットと業界標準のマイクの組み合わせによる16種類のセッティングをIRキャプチャーし収録した、デジタル・スピーカーシミュレーター/IR(インパルス・レスポンス)リーダーです。2つのバンクに各8種類のユーザープリセットを保存し、本体上面のBANK/CAB SELECTスイッチまたはMIDIプログラムチェンジ・コマンドで呼び出すことができます。可変式のリアクティブ・ロードを内蔵しているため、小音量でのダイレクトレコーディングやライブ時のコンソールへの入力をアンプに過負荷をかけず安全に行うことができます。キャビネットを必要としないため、インイヤーマニターを使うステージセッティングなどで、ステージ上の音量を最小限に留めたい場合にも活用いただけます。

16種類のファクトリー・プリセットに加えて、サードパーティー製の様々なIRデータをCabClone IR+内のメモリにダウンロード・保存が可能です。USBケーブルでPCと接続することにより、16のユーザープリセット枠に各1つずつ、ドラッグ&ドロップで簡単にIRデータを取り込むことができます。これにより、レコーディングやライブパフォーマンスの場で即座にお好みのIRプリセットを呼び出すことが可能です。

本製品は、ラインレベルとスピーカーレベル両方の信号を入力/出力することができます。MIDIプログラムチェンジ・コマンドにも対応しており、MIDI IN端子へ信号入力することで16種類のIRプリセットを呼び出すことができます。また、MIDI THRU端子を使用すれば、MIDI入力に対応する他の機器へプログラムチェンジ・コマンドをスルーさせることも可能です。

リアクティブ・ロード機能は、アンプに合わせた各インピーダンスでの入力に対応しており(購入時に選択可能)、スピーカーキャビネットを必要とせずにライン・レコーディング時や、ライブ時にコンソールへダイレクト信号を送る際にご活用いただけます。また、ステージ上でのモニタリング用として入力信号をスピーカーキャビネットへスルーさせることも可能です。この方法で接続する際に、各スピーカーの特性がアンプ側の出力トランスへ影響を与えることはありますが、それ以外の要素が選択中のIRプリセットへ影響することはありません。1/4" TO SPKR端子にプラグが接続されている時は、インターナル・ロードは自動的に無効となります。4Ω、8Ω、16Ωのうち、お客様の用途にあった適切なインピーダンスの製品をお選びください。本製品のロード機能は、電源への接続状況に関わらずリアクティブ回路として機能します。パワーサプライを接続して電源供給していない状態でも、リアクティブ・ロードとしての機能はご使用いただけます。

適切な動作温度を保つために、信号トリガー方式のクーリングファンを内蔵しています。このファンは、本製品を接続中のアンプから十分な信号の供給を受けている間のみ稼働します。

入力端子：1/4" フォン LINE端子、1/4" フォン FROM AMP SPKR OUT端子、5ピンDIN MIDI IN端子、POWER 18V DC端子(アダプター付属)、USB Type-Bポート

出力端子：1/4" フォン OUTPUT(TO SPKR)端子、5ピンDIN MIDI THRU端子、3ピンXLRオス DI OUTPUT端子(バランス)、1/4" フォン LINE OUT(DRY)端子、1/4" ステレオフォン HEADPHONES端子

本体トップパネルには、右から順に以下のコントロールが搭載されています。

CLIP LED(INPUT): アンプ側のスピーカーアウト(推奨)やプリアンプから本製品への入力信号の強さを表示します。黄色が最適な状態で、赤色は本製品の許容入力量を超えている状態です。赤色のLEDが消灯するように、本製品のINPUTノブまたはアンプ(プリアンプ)側のマスターボリュームを下げてください。

INPUT: INST/LINEとFROM AMP SPKR OUTの2系統の1/4" INPUTジャックから入力された信号のレベルを調節します。また、1/4" LINE OUT (DRY)ジャックから出力される信号レベルもここで調節できます。

PRESENCE: XLRバランスアウトと1/4" ステレオ HEADPHONESアウトから出力する信号のグローバルEQコントロールを行います。時計回りに回すとブライツが増し高音域が強調され、反時計回りに回すと高音域が徐々に下がっていきます。

OUTPUT: DI OUTPUTと1/4" HEADPHONES端子からの出力量を調節します。※LINE OUT (DRY)端子からの出力には影響しません。

これらのコントロールの下側にある8ポジションのCAB SELECTロータリースイッチとBANK SELECTトグルスイッチで、BANK A/Bそれぞれに収録されたIRプリセットを選択することができます。

本製品はMESA製キャビネットを使用した16種類のIR(インパルス・レスポンス)データを搭載しており、2つのバンクに各8パターンのプリセットが収録されています。BANK Aに収録されているのはダイナミックマイクとリボンマイクでレコーディングされた“LIVE” IR、BANK Bはコンデンサーマイクとリボンマイクでレコーディングされた“STUDIO”バージョンです。どちらのバンクも、8種類の同じキャビネットで収録したデータを同じ順番で搭載しています。これにより、BANKのトグルスイッチを切り替えるだけでマイクによる音色の違いを簡単にお楽しみ頂けます。

工場出荷時のキャビネットモデルは、上記の通りLIVE/BANK AとSTUDIO/BANK Bの2種類の手法でキャプチャーしており、各バンクのIRデータは以下のキャビネットを用いて収録しました。

1. 4x12 RECTO STANDARD - Celestion V30s - MESA Proprietary - 8 Ohm
2. 4x12 RECTO TRADITIONAL - Celestion V30s - MESA Proprietary - 8 Ohm
3. 2x12 RECTO HORIZONTAL - Celestion V30s - MESA Proprietary - 16 Ohm
4. 1x12 RECTO - Celestion V30 - MESA Proprietary - 8 Ohm
5. 1x12 THIELE - Celestion C90 - MESA Proprietary - 8 Ohm
6. 2x12 LONE STAR - Celestion C90 - MESA Proprietary - 16 Ohm
7. 1x12 LONE STAR 23 - Celestion C90 - MESA Proprietary - 8 Ohm
8. 1x12 CALIFORNIA TWEED 23 - Jensen 100w Alnico “Blackbird” - 8 Ohm

BANK A/LIVEバージョンは、Shure SM57ダイナミックマイクとBeyer M160リボンマイクを使用してキャプチャーしたものです。

BANK B/STUDIOバージョンは、Neumann U67真空管コンデンサーマイクとRoyer 122リボンマイクを使用してキャプチャーしたものです。

2つのバージョンはBANK SELECTのミニトグルスイッチの操作だけで簡単に切り替えることができます。

工場出荷時に搭載されている16種類のIRプリセットは、2バンク x 8プリセットのロケーションの任意の場所に移動したり、削除して既に購入済の他のIRデータと入れ替えることも可能です。Cab Libraryフォルダは、データ移行作業中に一時的にデータを保存しておいたり、購入したMESAまたはサードパーティー製IRに簡単にアクセスできるように保管するために使用できます。

IRの長さは100msで、非常に解像度の高い良質なIRデータを収録しています。これよりも解像度の高いデータを使用することも可能ですが、その場合には100msに切り捨てられます。

Helpful Hints

本製品は、ワールドクラスのスタジオ設備にて代表的なマイクの組み合わせを使用し、最高のクオリティと精度でポピュラーなMESA製キャビネットのサウンドをキャプチャーした16種類のIRプリセットを収録しています。

色がそうであるのと同じように、サウンドの良し悪しというのは主観的なものです。1つのサウンドを全く同じように受け止めるアーティストは2人として存在しません。ヘッドホンやモニター、レコーディングやライブ等あらゆるリスニング環境でテストを行い、想定しうる限りあらゆる環境やスタイルにマッチすると感じたものをファクトリー・プリセットとして収録しています。オープンかつ余計な味付けのないクリーンサウンドが得意なキャビネットから、軽くサチュレートしたブルース・オーバードライブ向けのヴィンテージ・オープンバック、2x12のクロードバック、そしてハイゲインなハードロックにぴったりのスピーカー4発が放つ分厚いサウンドまで、あらゆるプレイヤーを想定した16種類のプリセットを搭載しています。様々なサウンドとプリセットの組み合わせを試してみてください。そうすれば、あなたがレコーディングやライブの場でいかに役立つ強力なツールを選んだのか、すぐに気が付くことができるでしょう。

アンプのマスターボリュームを調節する際はご注意ください。 本製品は150W入力まで対応していますが、最高のトーンを得たいのであればボリュームを過度に上げることはお勧めしません。マスターボリュームを上げすぎると望み通りのサウンドを得ることが難しく、リアンプで設定した音色やレスポンスのコントロールを失うこととなります。また、スピーカーへの接続時と同様にパワー管を激しく消耗させるデメリットもあります。たいていの場合、マスターボリュームは11時~2時の間に設定するのがベストでしょう。この範囲に設定することでパワーセクションが持つ個性や豊かさを十分に生かしつつ、リアンプセクションでサウンドやレスポンスを適切にコントロールすることができます。パワーセクションがフルクリップするまでドライブさせてしまうと、リアンプセクションで設定したサウンドは良くも悪くもパワーセクションのパフォーマンスの影に隠れてしまいます。

本製品に搭載されたファームウェアは、様々なエラーを検出する機能を備えています。エラーが検出された際は、クリップ状態を示す赤いLEDが点滅します。エラー状態をリセットするには、パワーサプライを一度抜いて差し直すか、または本体底部の穴の中にあるブートスイッチを押してください。

本製品のリアパネルには非常に様々な接続端子が設けられています。お客様の用途に合わせたセッティング方法を示すために、他のMESA製品のマニュアルとは趣向を変えて、まずリアパネルの説明からスタートします。コントロールが位置するトップパネルは非常にシンプルで操作も簡単です。こちらは追って説明するので、まずは本製品のセッティングを済ませてMESAキャビネットをキャプチャーした素晴らしいサウンドを楽しみましょう。

Rear Panel (Interface Connections)

入出力端子について、左側から順番に説明します。

INPUT: LINE/INST ラインレベルの信号を入力する1/4"フォン端子です。リアンプからの出力信号を入力することも可能ですが、アンプがスレーブアウトを備えている場合はそちらと接続することをお勧めします。MESAアンプのスレーブアウトは、パワーアンプセクションを含む真空管シグナルチェーンの全てを通過した信号が出力されます。この際、必ずアンプ側のSPEAKER OUTがロード回路に接続されていることを確認してください。アンプ側のSPEAKER OUTと本製品のFROM AMP SPKR OUTが接続されていない場合、本製品内蔵のロード回路は動作しません(LINEインプットとFROM AMP SPKR OUTインプットを同時に使用することはできません)。

INPUT: FROM AMP SPKR OUT アンプのSPEAKER OUTからの信号を入力する1/4"フォン端子です(シールドされていない、高品質で出来るだけ短めのスピーカーケーブルをご使用ください)。本製品のIR機能はこの端子への入力信号に対して作動します。また、この端子とアンプを接続することで(ご購入時に選択したインピーダンスで)本製品内蔵のリアクティブ・ロード回路が作動し、アンプの出力トランスを保護します。リアクティブ・ロード機能は、本製品のTO SPKR出力端子に1/4"フォンプラグを接続すると無効となり、ここに接続されたキャビネットがロードの役割を果たします(LINEインプットとFROM AMP SPKR OUTインプットを同時に使用することはできません)。

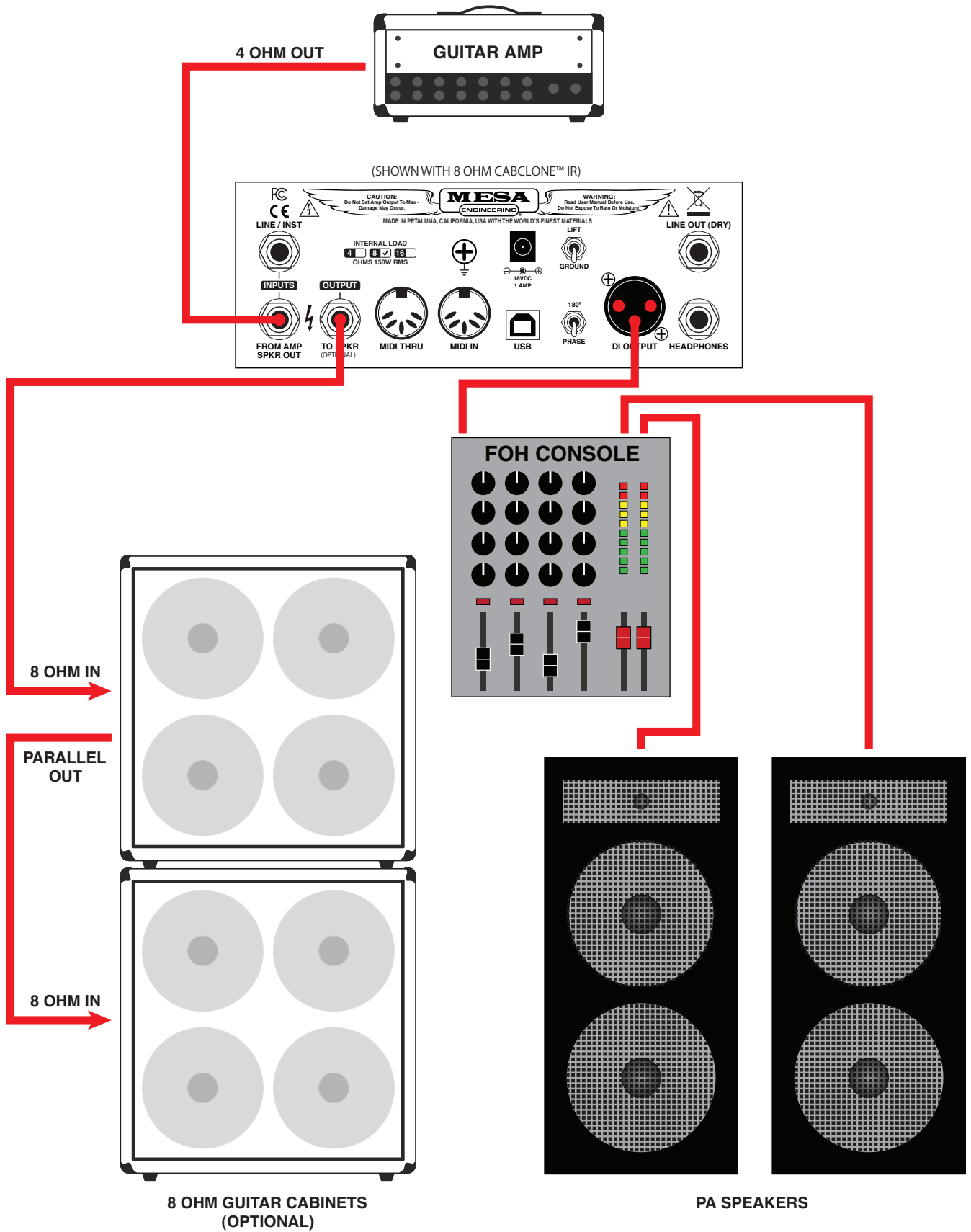
OUTPUT: TO SPKR.

ライブ時のモニタリング用として、任意のスピーカーキャビネットへ信号を出力するための1/4"フォン端子です。本製品とアンプ側のSPEAKER OUTを接続すると、IRの影響を受けていない信号がキャビネットへと送られます。TO SPKR端子にプラグを接続すると本製品内蔵のロード回路は無効化されるので、ご購入時に選択した当製品のインピーダンスはこの端子のインピーダンスには何も影響しません。内蔵のロード回路が無効化されるため、インピーダンスはここに接続した(1台または複数の)スピーカーキャビネットによって決定されます。

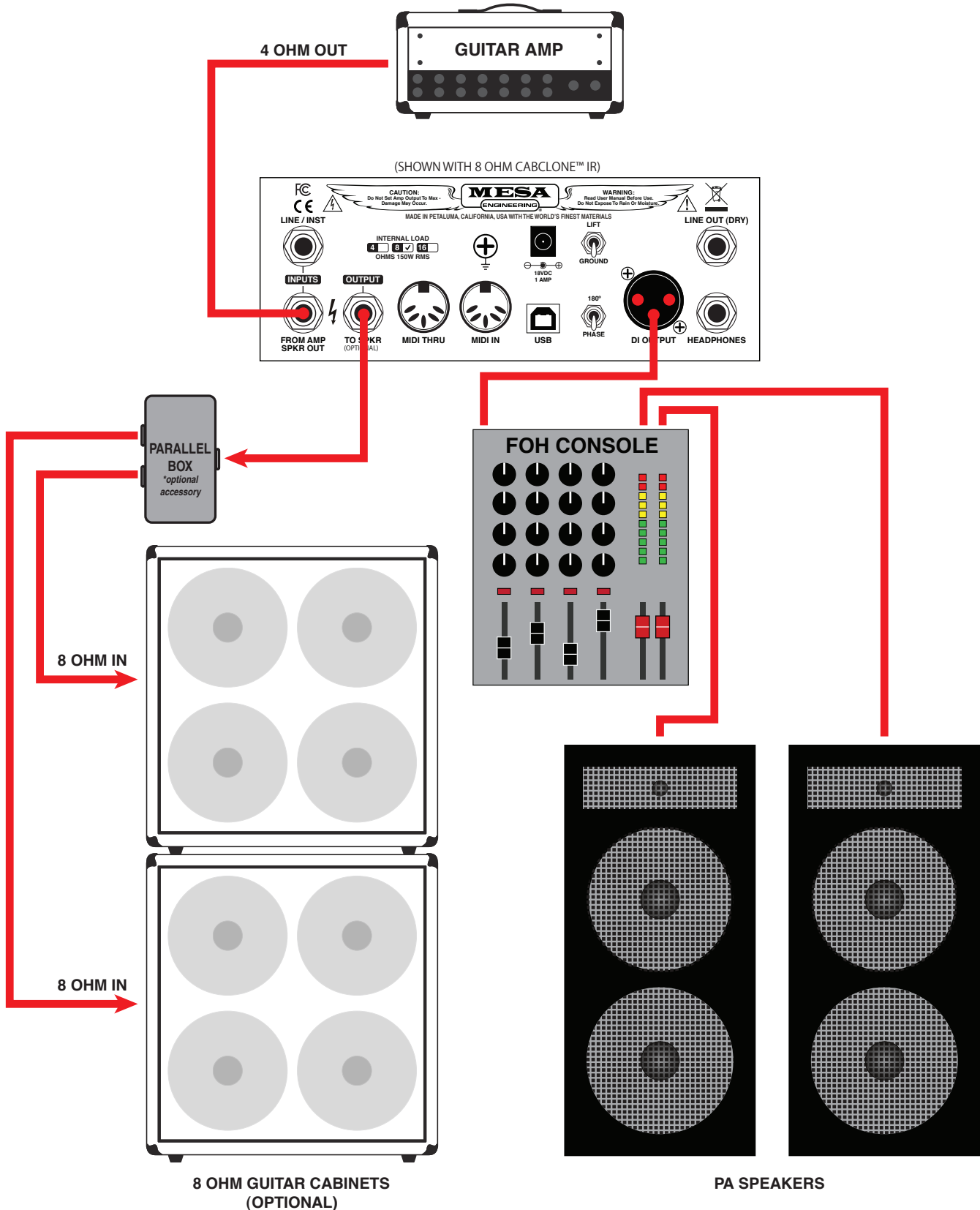
NOTE: TO SKPR端子からの出力を2台以上のスピーカーキャビネットへ送ることも可能です。MESAキャビネットは、キャビネットのリアパネルのPARALLEL端子を使用してダイジーチェーン接続することができます。この際、全てのスピーカーを接続した状態でのインピーダンス値が、アンプに対して適切な値になっていることを確認してください。たとえば2台のキャビネットを平行接続した場合、トータルインピーダンス値は各キャビネットが持つ値の1/2になります(8Ωのキャビネット2台を平行接続した場合のトータルインピーダンスは4Ωです)。この場合、まずアンプ側の4Ω出力を本製品のFROM AMP SPKR OUTに接続し、次に本製品のTO SPKR出力端子を最初のキャビネットの8Ω入力へ接続します。そして、1台目のキャビネットのPARALLEL出力端子を2台目のキャビネットの8Ω入力端子へ接続します。この手順を踏むことで、安全かつ適切にインピーダンスをマッチさせることができます。

MESA以外のキャビネット(またはPARALLELジャックのない旧式のMESAキャビネット)の場合は、平行ボックスを使用することで同様の結果を得られます(後述の接続例をご参照ください)。

8Ωキャビネット2台を用いたステージセッティング例



8Ωキャビネット2台を用いたステージセッティング例 (パラボックスを使う場合)



MIDI THRU: MIDI INへ入力されたMIDIコマンドを別のMIDI機器へスルーさせるための5ピンDINコネクタです。別機器と接続する際は可能な限り短いケーブルをご使用ください。

MIDI IN: 5ピンタイプのMIDIケーブルを接続してMIDIプログラムチェンジ・コマンドを入力することで、2バンク×8 計16種類のIRプリセットを選択することが可能です。本製品はMIDIマッピングには対応していないため、本製品のIRプリセットに合わせて他のMIDI機器をセッティングしていく必要があるでしょう。また、もしお使いの機材セット全体が既にプログラミングされており、その中に既に細かくマッピングされたMIDI機器が数台含まれている場合は、本製品とPCをUSBで接続して任意のプリセット枠にIRデータ(ファクトリー・プリセット or サードパーティー製データ)をドラッグ&ドロップするという使い方も可能です。本製品の各プリセット枠とMIDIプログラムチェンジ・メッセージの対応は以下の通りです。

Midi Program 001 = CabClone IR+ Bank A Preset 1
Midi Program 002 = CabClone IR+ Bank A Preset 2
Midi Program 003 = CabClone IR+ Bank A Preset 3
Midi Program 004 = CabClone IR+ Bank A Preset 4
以降、MIDIプログラムNo.008に本製品のプリセット8が対応。

上記に続き、No.009でバンクBのPreset 1、No.016でバンクBのPreset 8を呼び出せます。017以降は再度バンクAのPreset 1から順番に繰り返します。

8つのプリセット枠から構成される本製品の“マッピング”は(実際の“MIDIマッピング”とは意味合いが異なりますが)、MIDIバンクが10単位で構成されるMIDIキーボードや一般的なコントローラーと比較すると各バンクで2枠ずつオフセットが生じることとなります。ただしMIDIの最大バンク数は128(000から始まる仕様の機器であれば127)なので、全てのナンバーに対応する機器であればオフセットは生じません。

お分かりのように、MIDIバンクの数値が上がれば上がるほど10単位で構成される一般的なMIDIバンクと8単位で構成される本製品とのオフセットは広がっていきます。そのため、お客様が普段お使いのセッティングで既に細かくMIDIセットアップを済ませている場合には、PCとUSB接続してA/B各バンクの任意の枠にIRデータをロードする方が簡単で時間もかからないかもしれません。

MIDIチャンネルは固定でOMNIにセットされているため、16個のMIDIチャンネル全てのプログラムチェンジ・メッセージを認識します。

POWER: 18VDC/1 AMP: 付属の18VDC/1Aアダプターを接続し、電源供給を行うための入力端子です。アダプターのプラグを接続して電源供給を行ってください。プラグが奥までしっかりと接続されていることをご確認ください。なお、このアダプターはいかなる改造も行わないでください。改造した場合、本製品の故障を引き起こす可能性があり保証は無効となります。

USB: 別売のUSB2.0ケーブル(A-Bタイプ)を接続してIRファイル・ディレクトリを管理するための端子です。PC側のUSBポートと接続して、各プリセット枠上でIRファイルをドラッグ&ドロップによる操作が可能です。本製品は、一般的なUSBフラッシュドライブのような形式で“MESA IR”というディレクトリ名で表示されます。このディレクトリ以下に、各IRプリセット枠に対応したフォルダが存在します。IRファイルの操作が完了したら、必ず通常のフラッシュドライブと同じ手順で本製品を取り外してください。前述したように、本製品は各プリセット枠の他にIRファイルを保存しておけるストレージライブラリーを備えています。ファイルサイズによりませんが、このメモリに約数百個のIRファイルを保存しておくことができます。ただし、ノブやMIDIの操作で呼び出せるプリセット枠は2バンク x 8箇所の計16枠に限られます。

LIFT / GROUND:

ミニトグルスイッチを切り替えることで、DIアウトのグラウンド(ピン1)を本製品のシャーシグラウンドからリフトさせます。これにより、PAコンソールとCabClone IR+の回路間でグラウンドが異なることにより発生するグラウンド・ループを除去する効果があります。本製品をコンソールへ接続する際は、まずトグルスイッチをGROUND(下)側に設定してください。この状態でハムノイズやバズノイズを感じた際は、このスイッチをLIFT(上)側に切り替えてみてください。もしノイズがグラウンド・ループに起因するものであれば、これにより解決できる場合があります。必ずしもこれでグラウンド由来のノイズが解決されるとは限りませんが、スタジオやライブでのサウンドチェック時にノイズが気になるようであれば効果的な可能性のある機能です。

180 / PHASE:

上記のLIFT/GROUNDと併せて、DIアウト用のPhase(位相)切替スイッチを搭載しています。プロオーディオの分野では非常に一般的に用いられる機能で、位相を180度切り替えることで位相がずれている際に“インフェイズ(同位相)”の状態にすることができます。これはアンサンプルでのレコーディング時だけでなく、予想を超える数のアンプやキャビネット、楽器本体を使ってオーバーダビングされたトラックをまとめる際にも有効です。また、2台のアンプを組み合わせるサウンドをブレンドする際に、1台はクリーンサウンドでもう1台はより歪んだサウンドといった具合にアンプ間にゲイン差が生じていたり、同じアンプ同士でも異なるチャンネルやモードを使ってレコーディングしたりする際にはさらに有効です。非常によくあることですが、ゲインステージの構成によってアンプのチャンネル毎に位相が反転されていることがあります。用途は様々ですが、このPHASE REVERSE(位相反転)スイッチは、多くのプログレードの機材に搭載されている非常に便利な機能です。GROUNDスイッチと同様に、まずはトグルスイッチをNormal(下)側に設定してスタートしましょう。もしサウンドが普段よりもドライで刺々しかったり、貧弱でローエンドが削ぎ落されていたり、こもっているように感じた際は180(上)側に切り替えてみてください。多くの場合、これらの症状は他の機器との間で位相関係がずれていることが原因です。

DI OUTPUT:

このスタンダードタイプのXLR(オス)端子から、コンソールやインターフェースなど様々な機器へメインのIR出力を送ります。出力信号は2つのバンクに搭載された計16のプリセット枠のいずれか1つ(ファクトリー・プリセットまたは各プリセット枠に取り込んだサードパーティー製IRファイル)を経由したものです。この端子から出力するボリュームは、トップパネルのOUTPUTレベルコントロールで調節可能です。バランス出力で静電容量による高音域のロールオフに耐性があるため、15メートル前後の長いケーブルを使用しても信号が劣化することはないでしょう。ブライツネスや高音域の抜け感はトップパネルのPRESENCEコントロールで調節可能です。

NOTE: レコーディングやライブ等いかなる状況でサウンドチェックを行う際も、本製品の出力端子にXLRケーブルを接続する前にトップパネルのOUTPUTコントロールとコンソール側のフェーダーをゼロまで下げておくことを推奨します。これにより、コンソール側のインプットやモニター、ヘッドホン、そして耳までを含む環境全体に対する突発的な過入力によるダメージを防ぐことができます。あなた自身の耳を含めて、制作環境全体に配慮することが大切です。

LINE OUT (DRY):

INPUT(FROM AMP SPKR OUTまたはLINE)へ入力された信号を無加工の状態でも出力する1/4"フォン端子です。IRを経由した信号はDI OUTPUTおよびHEARPHONE 1/4"ステレオ端子からのみ出力されます。LINE OUT (DRY)から出力される信号強度は、トップパネルのINPUTレベルコントロールとINPUTへ接続されている機器のアウトプットコントロールで調節します。PRESENCEとOUTPUTレベルコントロールの設定は、この端子からの出力信号には影響をしません。

HEADPHONES:

ヘッドホン出力用の1/4"ステレオフォン端子です。ライブやレコーディング中に出力音を確認/調節するときだけでなく、周囲に迷惑をかけず実際の演奏に近いサウンドで“静かに”練習したい時に便利です。XLR DIバランスアウトと同様に、HEADPHONE端子からのボリュームレベルやブライツネス/キャラクターは、トップパネルのOUTPUTレベルコントロールとPRESENCEコントロールで調節できます。

TOP PANEL CONTROLS

CLIP LED:

この3つのLEDライトは、INPUT(LINEおよびFROM AMP SPKR OUT)への入力信号のレベルを示します。緑は入力信号が少し弱い(機能するものの十分ではない)状態、黄は理想的(平均的/パーフェクト)な状態、赤は信号が強すぎてクリップしかけている(あるいは既にクリップしている)状態です。可能な限り黄色のLEDがはっきりと点灯していて赤いLEDが点灯していない状態を保つようにしましょう。信号が弱すぎると過剰にノイズが乗ってしまったり、逆に強すぎると本製品のプロセッサの入力段で(不快な)クリッピングが生じてしまう可能性があります。

INPUT LEVEL:

プロセッサへの入力信号の強さを調節します。またLINE OUT (DRY)の1/4"フォン端子からの信号強度/出力レベルを調整します。アンプ(プリアンプ)側のマスターボリュームは大きすぎない程度の適切なレベルに設定し、赤色のLEDを点灯させずに演奏のダイナミクス全体が黄色のLEDの範疇に収まる理想的な入力信号強度になるよう調節します。この手順を踏まえることで安定したレベルの信号でIR/キャビネットシュミレーションをトリガーして、最適なパフォーマンスを得られます。

PRESENCE:

高音域やアッパーハーモニクスを調節して、お好みに応じてトーンを変更するコントロールです。様々なキャビネットシュミレーションにおいて、アタックのキャラクターレスポンスを変化させます。ライブ会場の音響に合わせて微調整を加えたり、レコーディング時に自分のパートがアンサンブル内でどう響くかを調節したりするのも便利です。12時のポジションでフラットになるため、通常はここにセットしておくといいでしょう。クリーン〜オーバードライブまでの幅広い音色において、リアルタイムに、手軽かつ明確にサウンドの重要なファクターとなる帯域のニュアンスを変化させることが可能です。

OUTPUT LEVEL:

XLRバランスアウトおよびHEADPHONE 1/4"ステレオ端子からの出力レベルを調節します。なお、こちらはアンプ側のマスターボリュームで調整されるTO SPKR端子やトップパネルのINPUTコントロールで調節するLINE OUT (DRY)端子には影響しません。

PAコンソールまたは他のデバイスのインプットステージでオーバーロードした場合、不快な“デジタル”クリッピングが生じる恐れがあります。これを回避するために、本製品のOUTPUTコントロールまたはPAコンソール側の入力レベルを最適なS/N比(バックグラウンドノイズが目立つほど低すぎずかつクリップしていない状態)になるまで下げてください。最初はOUTPUTコントロールをゼロ/OFFの状態まで下げおき、PAコンソール側の入力レベルがユニティになるようセットした上で音を出し始めます。徐々にOUTPUTコントロールを上げていき、最も強くピッキングした際にもクリップしないように設定します。

PAコンソールではなく本製品にヘッドホンを接続してモニターしたい場合は、まずOUTPUTコントロールでヘッドホンのリスニングレベルをセットし、それに応じてコンソール側の入力を適切な値にセットしてください。上述した通り、OUTPUTコントロールはDIAウトとHEADPHONEアウトからのレベルコントロールを同時に行うため、この手順に従う必要があります。

CAB SELECT ROTARY & BANK SELECT SWITCH:

8ポジション・ロータリースイッチとそれに対応する8つのLED、およびBANK SELECTのミニスイッチを用いて各バンクに収録された8つのIRを切り替えます。BANK A選択中はLEDが緑色に、BANK B選択中は赤色に点灯します。

IRの順序は自由に変更できますが、工場出荷時の設定では最大サイズのクローズドバックタイプのキャビネットを用いたIRが最初の5枠、オープンバックが残りの3枠に収録されています。これは最もサウンドが大きく著名なキャビネットを最初に、そして比較的小さくマイナーなものが後に続くように意図して配列したものです。USBケーブルでPCと接続することで、8つのプリセット枠に収録されたIRを自由に並び替えたり交換することができます。

NOTE: IMPORTANT!! CAB SELECTロータリースイッチでIRプリセットを選択するとき、またはSPKR / LOADスイッチでSPEAKERとLOADを切り替えるときに、CabClone IR+に信号を入力したり信号を再生したりしないでください。誤ってプリセットナンバーの間にスイッチが設定されてしまうと、ユニットを通過する信号のレベルが突然大きくなり、コンソールまたはインターフェースの入力回路、スピーカーなどの機材だけでなく耳にもダメージを与える可能性があります。IRプリセットを選択したりロードを切り替えるときには、ギター弦やコンソール/インターフェースのチャンネルをミュートしてください。

SPKR/LOAD SWITCH: このミニトグルは、内部リアクティブ・ロードのステータスと、FROM AMP SPKR OUTジャックにスピーカーキャビネット接続時のスピーカーキャビネットとの接続ステータスを決定します。

このスイッチでSPKRが選択されていて、TO SPKRアウトにケーブルが接続されていない場合にはWARNING LEDが点灯し、ご使用中のアンプの出力トランスが無負荷状態で危険であることを表示します。このLEDにより、偶発的な不注意を防止することができます。

スピーカーキャビネットを使用したい場合、WARNING LEDが点灯していないことをご確認ください。

スピーカーキャビネットを使用しない場合はスイッチをLOAD側に切り替えてください。TO SPKRアウトにスピーカーキャビネットが接続されていないときは常にこのスイッチをLOAD側に設定してご使用ください。

!!IMPORTANT! SPKR/LOADスイッチがSPKR側のポジションにセットされている時、TO SPKRアウトにスピーカーを接続せずにアンプの演奏を行わないでください。

CabClone IR+は、内蔵のアッテネーターと回路の仕様上、SPKR/LOADスイッチを介して手動でInternal Reactive Loadの選択を行う必要があります。 **IMPORTANT!** 常にご使用中のアンプのロード状況を確認するようにしてください。キャビネットがTO SPKRアウトジャックにスピーカーキャビネットが接続されていない場合、SPKR/LOADスイッチのSPKR側を選択しないでください。この手順を遵守頂けない場合、ご使用のアンプが損傷する可能性があります。

NOTE: IMPORTANT!! CAB SELECTロータリースイッチでIRプリセットを選択するとき、またはSPKR / LOADスイッチでSPEAKERとLOADを切り替えるときに、CabClone IR+に信号を入力したり信号を再生したりしないでください。誤ってプリセットナンバーの間にスイッチが設定されてしまうと、ユニットを通過する信号のレベルが突然大きくなり、コンソールまたはインターフェースの入力回路、スピーカーなどの機材だけでなく耳にもダメージを与える可能性があります。IRプリセットを選択したりロードを切り替えるときには、ギター弦やコンソール/インターフェースのチャンネルをミュートしてください。

LEVEL: INF/-16dB アッテネーターの-16dBポジションのレベルコントロールです。隣接するATTENUATOR 5ポジションロータリーで-16dBのアッテネーションが選択されている場合、さらにボリュームのリダクション/アッテネーションが可能です。一番低いポジションで、このコントロールを使用することでリスニングレベルをささやき声のレベルにまで微調整し、ヘッドフォンでの練習やコンソールへ接続する際等にご使用ください。

この状態で使用するとアンプのパワーセクションの優れたクリップサウンドを引き出すことができますが、優れたアンプサウンドを得るためにアンプを最大限までクランクアップしなければいけないという通説は、ただの通説にしかすぎません。大抵の場合、不合理にパワーチューブがブッシュされることで不快なサウンドキャラクターが表れ始め、サウンドコントロールを犠牲にすることになります。さらなるオーバードライブが得られるかもしれませんが、払う犠牲を考えると釣り合わないでしょう。パワーセクションのサチュレーションに関しては、確実にリターンが減少し始めるポイントがあります。アンプのマスターボリュームコントロールが半分程度までクランクアップされパワーセクションが明らかにハードに稼働してコンプレッションし始めたら、別のギターやピックアップ、スピーカー、またはドライブペダルを使用してオーバードライブを増やした方が賢明でしょう。ご使用のパワーセクションのトーンレンジを超えたクリップ感を求めてパワーセクションを拷問するよりも、上記の方法の方が、コントロールとトーン面からも良い結果を得られるでしょう。

CabCloneのファンが常に稼働している状態もかなりの無駄なエネルギーを発生させている兆候で、過剰なエネルギーは、CabClone内のInternal Loadに熱を発生させます。その場合、求める量のボリュームリダクションを行うのに必要な分だけのアッテネーションを行うことをお勧めいたします。上記で触れたとおり、素晴らしいアンプサウンドというものは、Master Volume/Output Levelが最大になる前に生まれます。Masterを上げすぎたセッティングを避けることで、より優れたまとまりのあるトーンを得ることができ、真空管の寿命も長くなります。また、熱を発生させすぎずにCab Clone IR+稼働させることが可能になります。

ATTENUATOR:

CabCloneのファンが常に稼働している状態もかなりの無駄なエネルギーを発生させている兆候で、過剰なエネルギーは、CabClone内のInternal Loadに熱を発生させます。その場合、求める量のボリュームリダクションを行うのに必要な分だけのアッテネーションを行うことをお勧めいたします。上記で触れたとおり、素晴らしいアンプサウンドというものは、Master Volume/Output Levelが最大になる前に生まれます。Masterを上げすぎたセッティングを避けることで、より優れたまとまりのあるトーンを得ることができ、真空管の寿命も長くなります。また、熱を発生させすぎずにCab Clone IR+稼働させることが可能になります。

この5ポジションロータリーで、5種類のセッティング/レベルのアッテネーションを選択することができます。人間の聴力は可変するためボリュームを均一に知覚しないことを考慮して、増分量は均一に設定されています。ご使用のアンプのアウトプットセクションを求めるレベルに設定した後、アッテネーターを使用して適切なリスニングレベルに調節してください。上記で触れたとおり、アンプのアウトプットセクションを常に高いレベル/Masterセッティングで使用すると代償を支払うことになります。得られるリターンが明らかに減少をし始めるポイントがあるので、アッテネーターを必要な量だけ使用することをお勧めいたします。

また、前述のとおり、-16dBセッティングは、一番高いレベルのアッテネーションでリスニングレベルを微調整するためのLEVELコントロールだということにご注意ください。この機能を使用すると、ご使用のアンプのMasterセッティングに関係なく、ささやくようにソフトなブレイレベルを実現します。ご使用のアンプのMasterボリュームを任意に上げたり、下げたりする必要はありません。過度のストレスをご使用のアンプとパワー管にかけないためです。過度のストレスがかかると、CabClone+の内蔵リアクティブ・ロードから過剰な熱が発生します。それゆえ、アンプのMasterはパワーアンプセクションのキャラクターが十分に再現される範囲で設定をし、自身の求めるプリアンプのトーンコントロールやシェイピング要素を失わない程度の設定にしてください。

ORGANIZING AND LOADING IR's:

本製品にIRファイルをロードしたい際は、スタンダードなUSB 2.0ケーブルを用いて本製品とPCを接続してください。機器がPCに認識されると、MESA IRという名前のフラッシュドライブとしてファイルブラウザに表示されます。本製品は一般的な大容量のストレージデバイスと同じ仕組みを採用しているため、ファイルの取り込みに際してドライバー等を使用する必要はありません。Windowsでは、もしドライバーを要する環境であった場合には初回接続時に自動的にインストールされます。この際は、インストールが正常に完了してから(約1分程度で完了します)次の手順に進んでください。

PCへの接続中は以下の状態になります。

- ・8つのプリセットLEDが点灯
- ・全ての出力端子がミュートされます
- ・BANKトグルスイッチとPRESETロータリースwitchの操作は無効
- ・MIDIコマンドの入力およびMIDI THRUが無効

MESA IRフラッシュドライブ内は、BANK A、BANK B、Cab Library の3つのフォルダに分かれています。各バンクフォルダ内には8つのサブフォルダがあり、それぞれFile 1～File 8という名前が付けられています。これらが8枠のIRプリセットと対応しており、本体トップパネルのCAB SELECTロータリースwitchとバンクのA/Bスイッチで切り替えることができます。

各サブフォルダに格納するIRファイルは1点のみとしてください。もし1点以上のファイルを格納したり、空になったりしている状態で使用した場合、このプリセット枠を選択すると無音になります。また、対応するPreset LEDが点滅します。

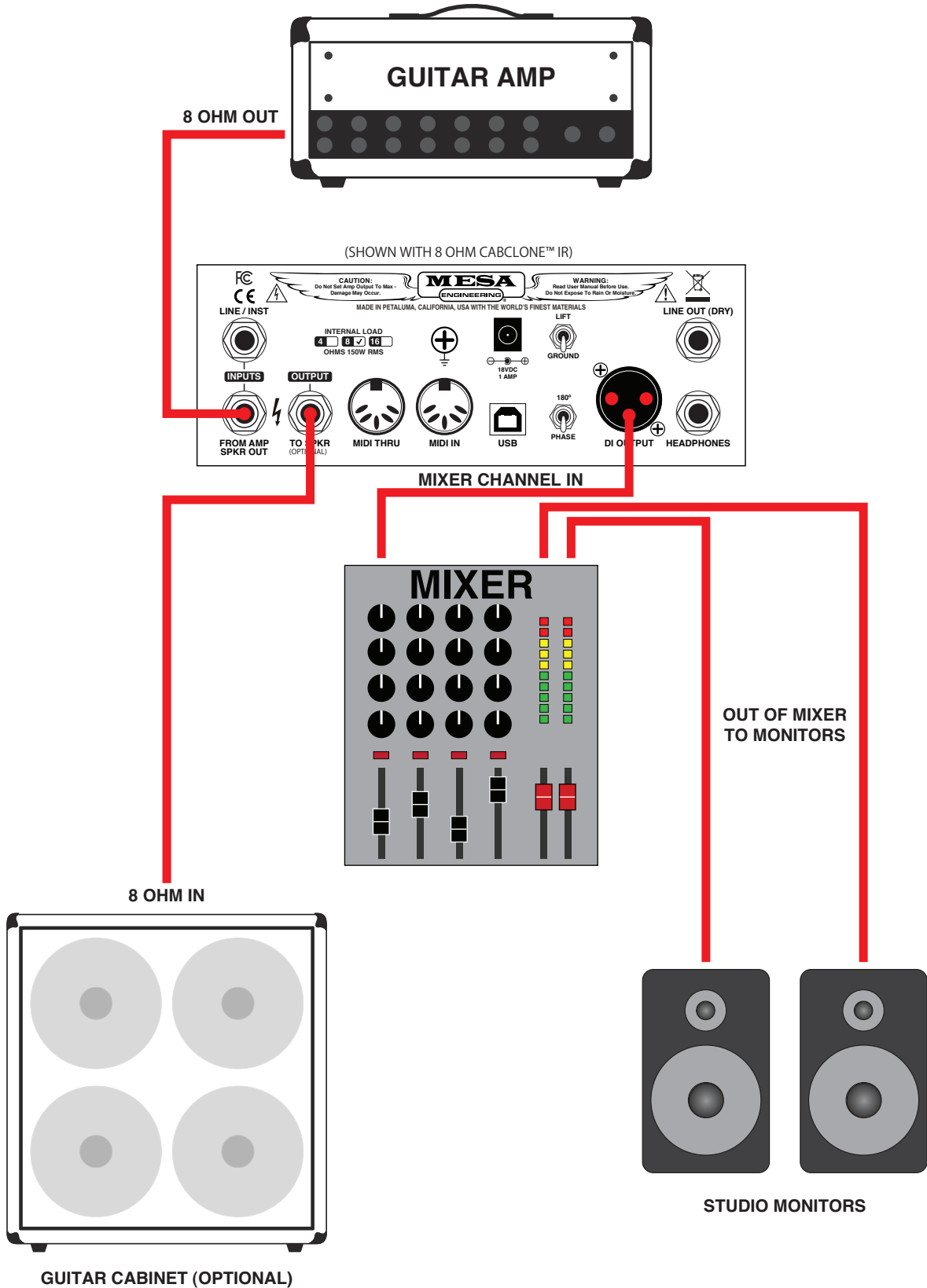
Cab LibraryフォルダはMESA製IRファイル用またはサードパーティー製データ用のストレージフォルダとして使用可能で、ファイルサイズにもよりますが、数百個のIRファイルを格納することができます。このフォルダにIRをストックしておけば、ドラッグ&ドロップだけの操作で簡単にIRファイルを入れ替えることが可能です。

IRファイルの入替作業が完了したら、通常のフラッシュドライブと同様に、WindowsやMac OSなど各環境に従ってUSBデバイスを取り外します。この手順を踏まえずに本製品を取り外した場合、データの消失などにつながる恐れがあります。

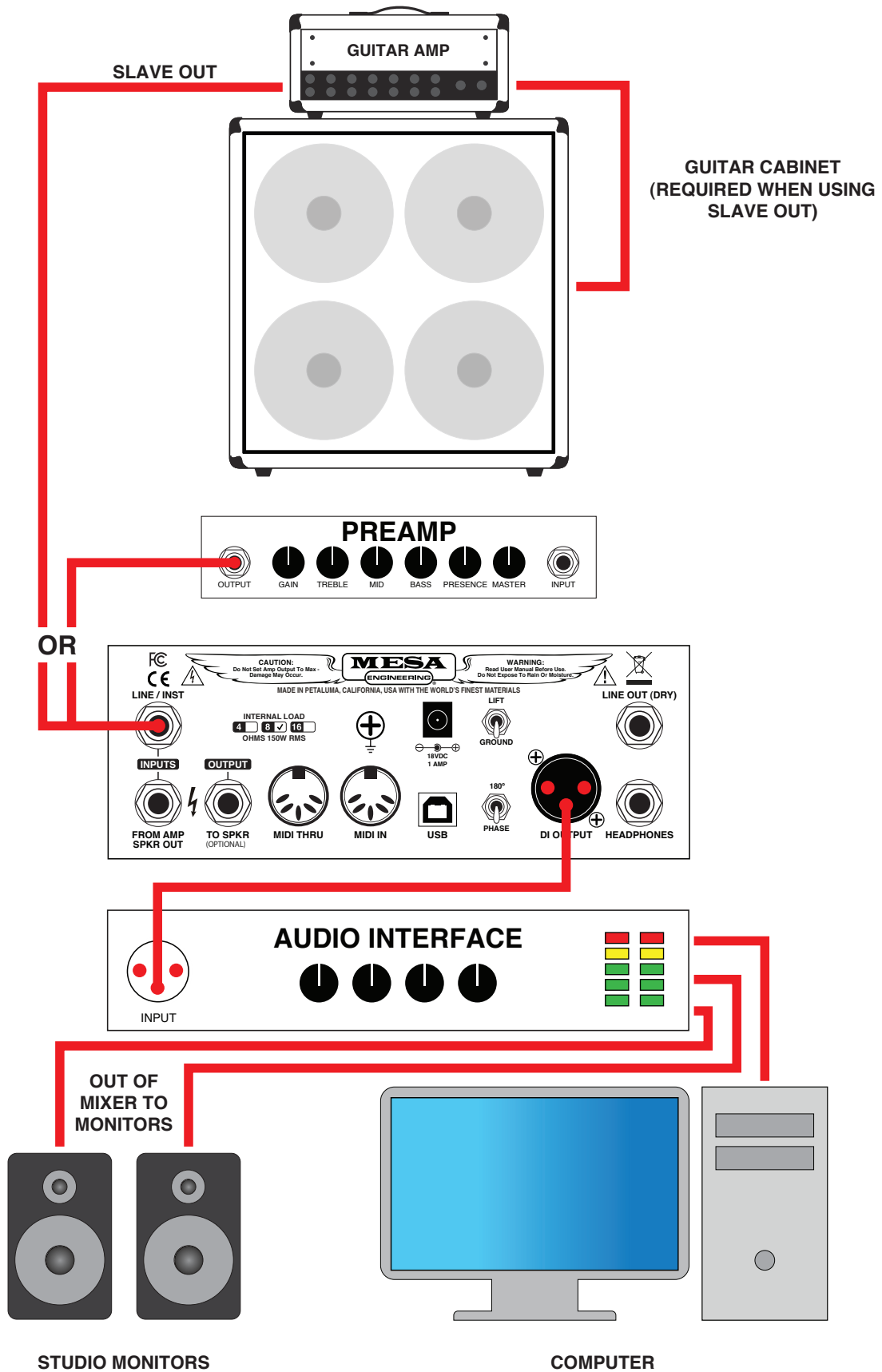
NOTE: MIDIでIR枠を素早く切り替える際、上記の“File”フォルダは内蔵のハイスピード・ライブラリへ一時的に移行します。このライブラリはデバイスの取り外し後に生成され、各ファイルフォルダ内のファイルが更新されている場合このプロセスに約20秒を要します。この間インプットLEDが点滅し、進捗状況がプリセットLEDで示されます。これが完了するまで他の操作は行わないでください。

これで機能や操作の説明は終わりです。本製品がレコーディングやライブの場で活躍し、ユーザーの皆様の音楽活動に新しい着想を与えることを願っています。

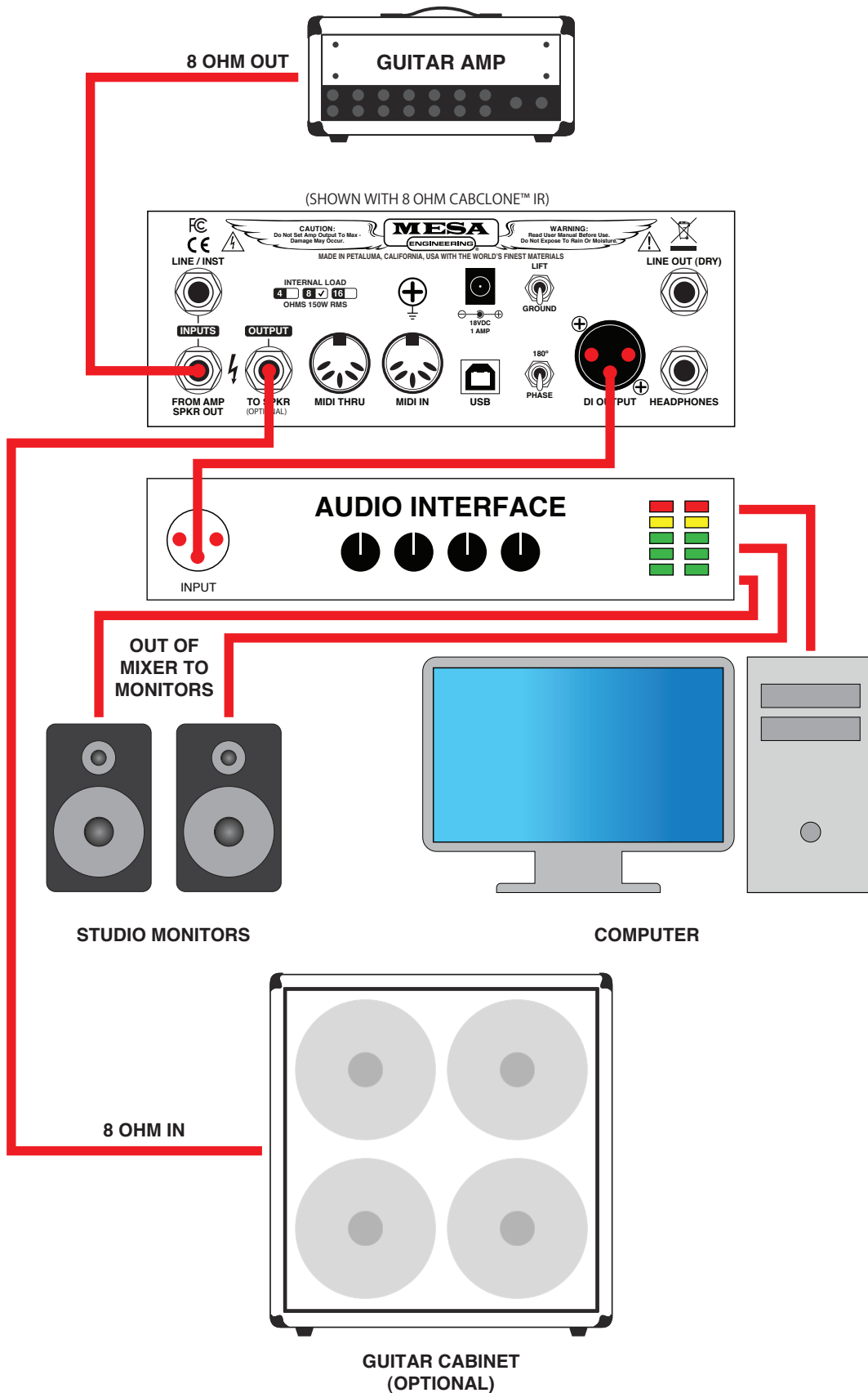
ライブやスタジオでの接続例: RECORDING STUDIO



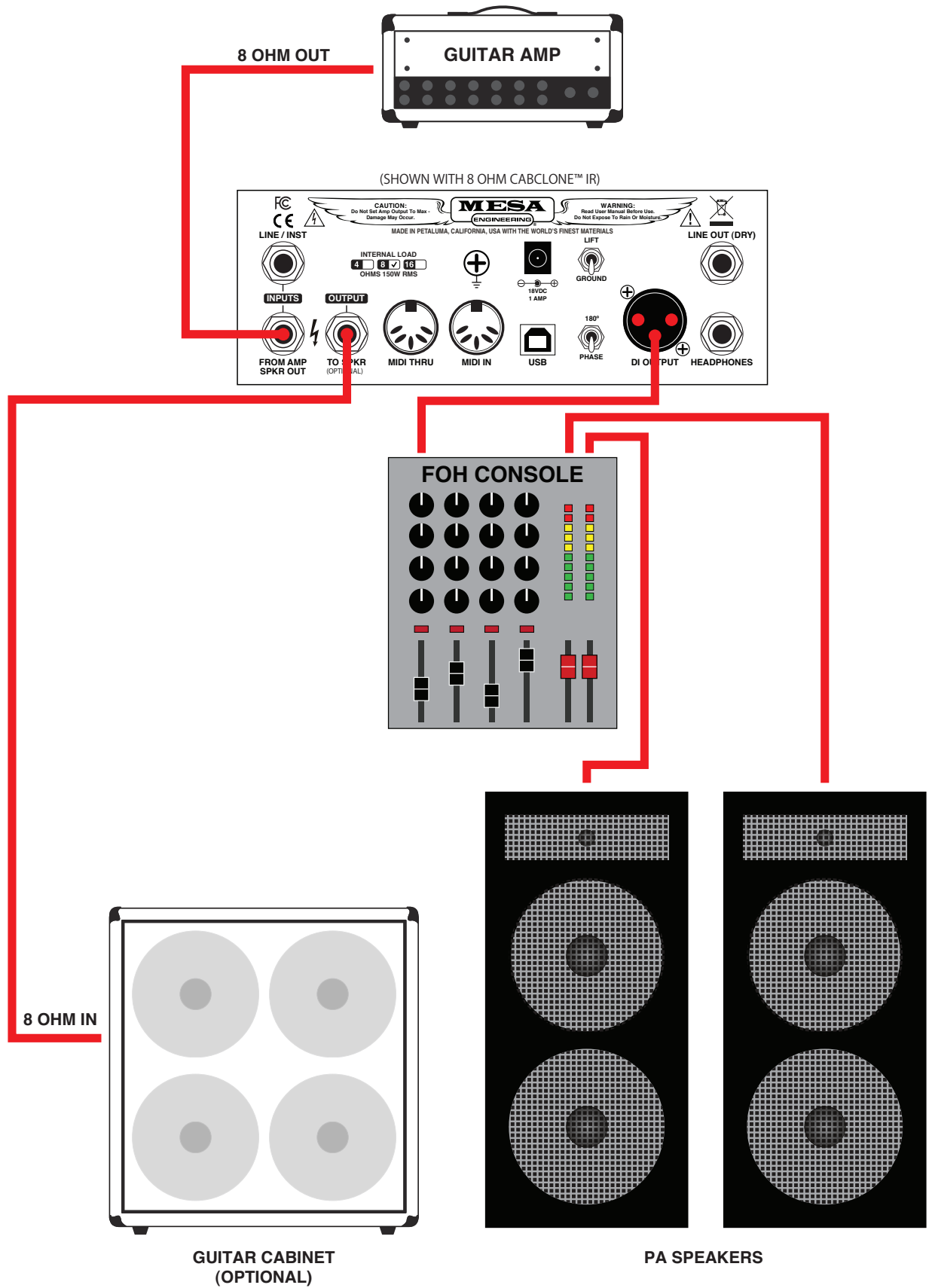
SLAVE OUT/LINE LEVEL入力の場合



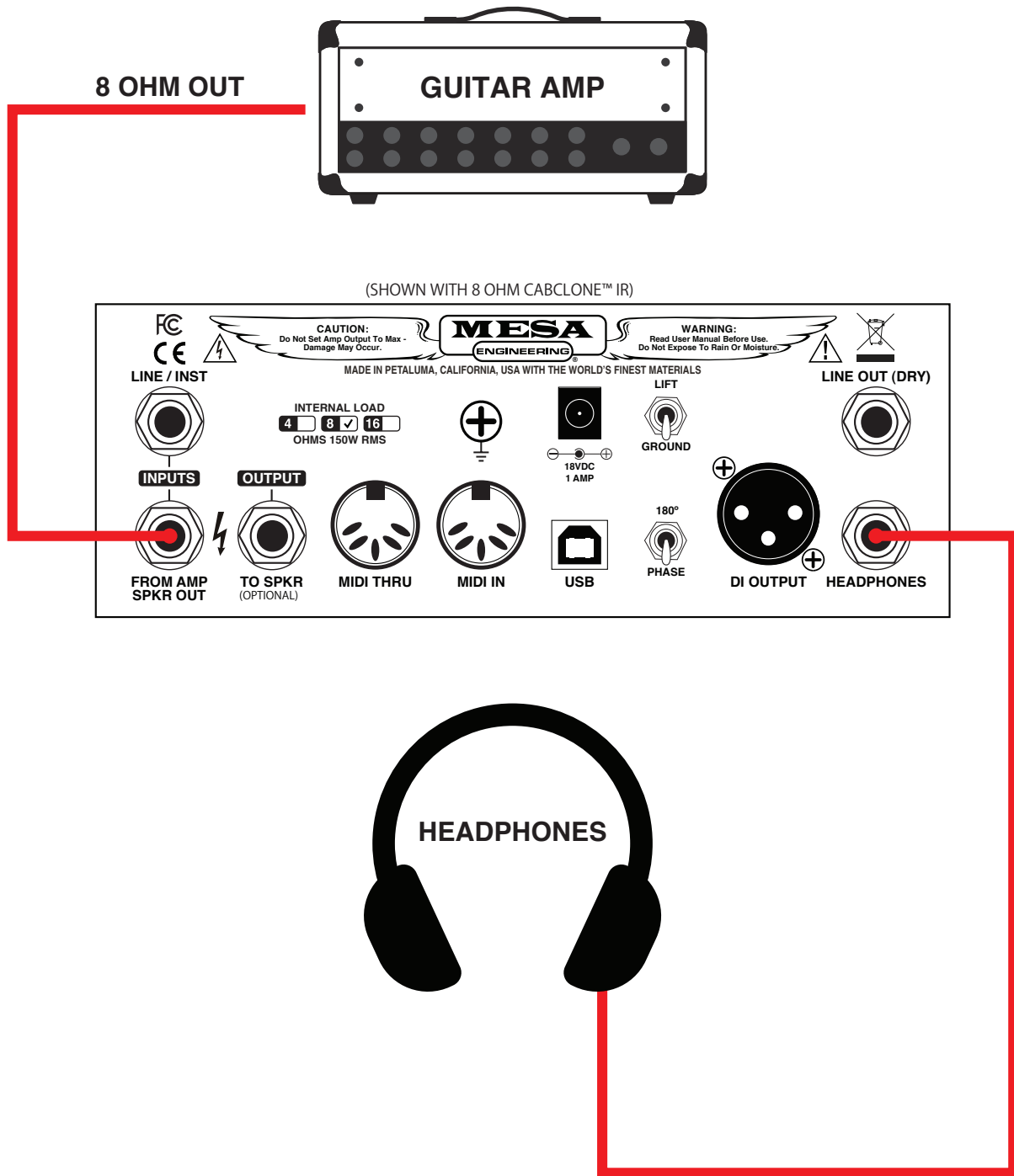
DAWへの接続/レコーディング



キャビネットを使用したステージでの演奏



ヘッドホンでのサイレントプレイ



CABCLONE™ IR+

Specifications

Supported IR File Specifications

- WAVE files (.wav)
- Mono
- 48 kHz
- 24 bits are preferred (but 16 or 32 bits will also work)
- 100ms or under (longer files will be truncated to 100ms)

Hardware Specifications

Latency (from Input connector to Output connector): 2ms

AD/DA conversions:..... 96kHz/24bits

Processing:..... 48kHz/32bits

Bandwidth:..... 30Hz - 19 kHz

THD+N:..... 0.012%

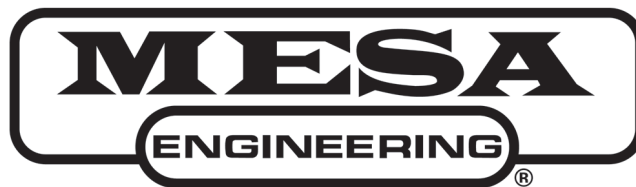
Max Output Voltage (balanced):..... 21 Vpp / 19.6 dBu

製品の改良等により、予告なく仕様が変更となることがございます。予めご了承ください。

MESA/BOOGIE[®]

The Spirit of Art in Technology[™]

Thank you for trusting MESA/Boogie[®] to be your amplifier company and we wish you many years of toneful enjoyment from this handcrafted instrument.



The Spirit of Art in Technology™



ギブソン・ブランズ・ジャパン株式会社

Email: service.japan@gibson.com

「@gibson.com」からのメールを受信できるよう設定をお願いいたします

お電話でのお問い合わせ窓口：0120-189433（通話料無料）

受付時間 9:30 - 17:00（土、日、祝日、年末年始を除く）